

DSK（男声讃美歌研究会）の快挙

東西のクローバークラブのシニア層を中心に、同志社グリークラブの精神的バックボーンの一つである讃美歌を大切に歌う DSK というグループがあることを、特に若い OB の皆さんはご存知ないかもしれません。

先日、東京クローバークラブのメンバーが中心となる設立 11 年目の DSK が 15 名で、「第 12 回国際シニア合唱祭ゴールデンウェーブ in 横浜」に初めて参加してきました（4 月 19 日）。なんとイベントそのものは、横浜みなとみらいホール（大ホール）を 3 日間貸し切り、80 を超える全国から集まった団体にアジアからの招待団体を加えるという大きなイベントです。講評者も有名どころの先生方が 18 名と、どこにそんな資金があるのか（？）という個人的な驚きもあるものでした。また、参加資格も、最低年齢が 50 以上、平均年齢が 60 以上、メンバー 15 名以上という、タイトル通りの集まりです（DSK の 50 代は 1 人、60 代はゼロ！）。

DSK が歌ったのは、讃美歌 1-354 「牧主我が主よ」（脇地駿 編曲）と、男声合唱とピアノのための「主は私の羊飼（詩編 23）」（松下耕 作曲）の 2 曲でした。

ステージでは、初出場であることが祝われ、また 90 歳以上ということで寒河江さんが表彰されました。歌ったメンバーは自分たちのブロックが終わった後、軽く食事をして「楽しかったね」と感想を述べつつ帰宅の途についていたのですが、夜になって驚きの情報がきました。

< 神奈川県知事賞 > を受賞したのです。どうやらその日で一番の出来の団に渡される賞だったそうです。団員全員、何も意識していませんでした（笑）。3 日目の講評者のぶっちぎり全員一致だったそうな、、、。（講評者：足立さつき、岸信介、名島啓太、信長貴富、長谷川冴子、古橋富士雄の 6 名）

後日、講評者の自筆講評シートを読ませていただきましたが、なんか嬉しくなりました。しかし DSK は、ただただ賛美の音楽をホールで共有するためにステージに立ちました。私自身、普段はメンバーではありませんが、今回の松下さんの詩編 23 の曲が大好きで、少ない練習参加を許していただき、オンステさせていただきました。練習の中での先輩からの聖書、讃美歌の説明などでも、「クリスチャンではないけれど同志社に連なって良かった」と感じることも多々ありました。

この 10 年から 20 年ぐらいの若い OB の方は OB 会や OB 合唱団を通じて大先輩方と交わる機会が少なくなってきたように思えます。ある種の残念さを感じます。昔と違って歌という音楽も多様化しており、いろんな場所での歌う機会も様々です。ですが、同志社大学、同志社グリークラブから生まれるせつかくの「ご縁」も同志社人として忘れないでほしいものです。

それにしても、あのホールであの響きの中で歌えたことは、幸せでした。

東京クローバークラブ 梅田隆司（1988 年卒）